



転倒転落発生率・転倒転落による損傷発生率

<項目解説>

期間中の入院患者の延べ人数に対して新規に発生した転倒・転落件数の割合で、全入院患者を対象とします。転倒・転落の原因としては、患者さまの健康障害（歩行障害）、治療に伴うもの（画像検査時の壇上からの転落など）、環境（滑りやすい廊下など）等があります。

<当院の実績>

【平成25年度】	転倒転落発生率	3.06%	(781/254,892)
	損傷発生率	0.44%	(113/254,892)
【平成26年度】	転倒転落発生率	3.04%	(741/243,876)
	損傷発生率	0.52%	(128/243,876)
【平成27年度】	転倒転落発生率	3.37%	(766/227,087)
	損傷発生率	0.32%	(73/227,087)
【平成28年度】	転倒転落発生率	3.49%	(779/223,028)
	損傷発生率	0.29%	(64/223,028)
【平成29年度】	転倒転落発生率	3.81%	(764/227,366)
	損傷発生率	0.45%	(103/227,366)

(%：パーミル=1/1000)

<当院の自己点検評価>

当院では、患者さまの転倒・転落のリスクに応じて、看護目標や看護問題として看護計画の中で立案しております。転倒・転落防止のためには、施設環境の整備が重要であることはいうまでもありませんが、加えて職員が転倒・転落予防の知識を身につけ、医療・看護業務にあたる必要があります。今後も、安心・安全な医療・看護を実践していきます。

<定義>

- ・医療安全管理科へ提出されたレポート件数
 - ・損傷発生率は損傷レベル2以上
- ※日本病院会QIプロジェクトの定義に準拠

<算式>

分子：セーフティレポートによる転倒転落件数
分母：入院延べ患者数（新生児を含む）